第3回学校運営協議会会議録

開催日時	令和6年2月29日(木) 10時00分～11時30分
会場	北海道北斗高等支援学校被服室
出席者数	9名

内容

1 説明

- (1) 学校評価の結果について
- (2) 今年度の取組の総括及び次年度に向けて
- (3) 令和6年度(2024年度)学校経営方針について

2 感想交流「今年度の学校運営協議会を振り返って」

- ・生徒との熟議については、生徒会役員が上手に内容をまとめてくれていた。このような取組が増えるとよい。
- ・地域で何ができるかについて、生徒がよく考えている。
- ・生徒とグループワークを行うことで、達成感とは与えられるものではなく、やりたいことをやることで得ることができる。今後も継続してほしい。
- ・熟議では、生徒の声が聞くことができ、お互いに学べる内容であった。
- ・地域における除雪は、成果として評価できる。
- ・地域の除雪の取組はよかった。新しい取組をスムーズに実施できればと思う。
- ・卒業後、生徒は「子ども」から「大人」へ切り替わることでつまずくことがある。働くことだけでなく、生活する力を身に付ける必要がある。
- ・今年度の卒業生は介護職への就職者はいないようだが、免許取得事業等を必要に応じて実施したい。実習と就労をつなぐ役割が必要である。
- ・福祉サービス等とのつながりは、在学中だけではなく、卒業後を見据えておく必要がある。
- ・就労先については、実習と就労が繋がらない場合もあるが、生徒自身が主体的に決定できるよう、取り組んでいく必要がある。
- ・情勢が変化する中、生徒とできることを考え、行動できたことは素晴らしい。
- ・学校は、自立と社会参加、自己実現を目指して、「働くこと」をテーマに据えて取り組んでいくことが望ましい。
- ・介護業界は人材不足ではあるが、持っている力と実状をマッチングさせ、分業することで雇用は増えると考えている。介護職員基礎研修等を授業で取り入れるとよい。
- ・人材は確保することとともに、育成することが重要である。指導者側の意識変革が必要である。
- ・中小企業家同友会では、障がい者雇用の認知度を高める取組を実施している。中学校の特別支援学級の教員しか進路先のことを知らない現状がある。

3 助言

- ・高等支援学校では、「人としてどう生きるか」という視点の指導が足りないと感じている。働くことは指導しているが、人間力を身に付けることが重要である。
- ・生徒の言動については、受け答えが正しすぎると感じている。元気がなく、形式的なものになっている。
- ・高等部への進路選択は、中学校段階では遅いため、小学校でビジョンを持つ必要がある。北斗高等支援学校の教員は小学校の特別支援学級の教員や保護者に周知する役目を担ってほしい。
- ・除雪など、北斗高等支援学校の生徒が活躍できる場面を作ることができた。今後も力を発揮する場を設けてほしい。

4 校長から

- ・貴重な意見を参考に、ひとつひとつ向き合いながら内容を深めていきたい。本協議会が来年度以降、発展するように取り組むたいと考えているので、御協力をお願いしたい。

上記のとおり会議を実施した。

令和6年2月29日 北海道北斗高等支援学校長 澤田 崇史 ㊞